ＩＣＴ交流(933 少年少女海外研修・交流事業)

これまでの交流の積み重ねを土台に，これからの時代に即した交流で世界をより身近に

～ 新たにＩＣＴを活用したオンライン交流を実施 ～

■事業日程

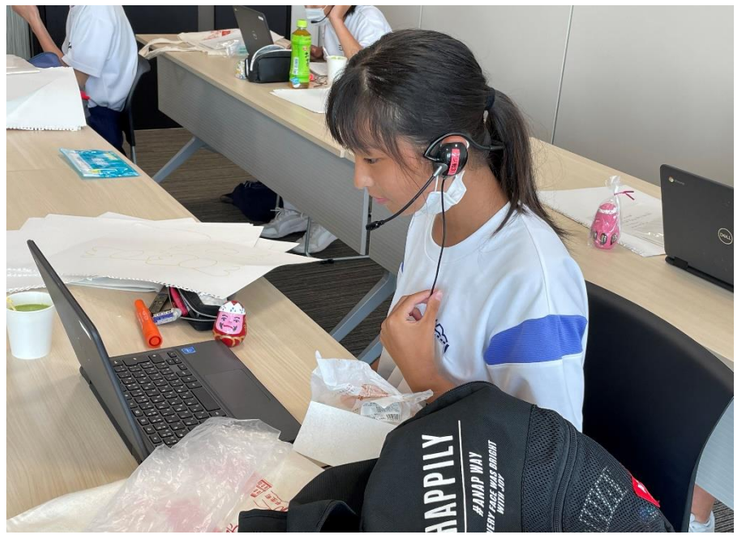
4 月～5 月　参加メンバー生徒募集

6 月～8 月　オンライン交流（主な事業）

6/19(土)　シンガポール歴史講義
7/3（土）　やっさ踊り・プレゼン練習
7/22(木)　自己紹介
7/29(木)　ゲーム，フリートーク＆カルチャー体験(日本の食)
8/5（木）　プレゼン，フリートーク＆カルチャー体験(シンガポールの食)

※下線は，ベティ中学校とオンラインで交流する事業

【主な成果】
ＧＩＧＡスクールで整備したＩＣＴ端末を活用
→現地を訪問できない中でも，ベティ中学校と異文化交流を図ることができた。
→緊急事態宣言時でも，予定を変更することなくオンライン交流を実施できた。
→オンライン交流以外でも生徒同士が個別に交流することで，より相互理解が深まった。



→参加者の国際理解・英語学習に対する意欲の向上につながり，国際感覚の育成を図ることがきできた。

ＩＣＴ交流(935 親善都市交流推進事業)

神奈川県湯河原町との小学校 5･6 年生児童による交流

～ 新たにＩＣＴを活用したオンライン交流を実施 ～

■事業日程■

6 月　参加メンバー生徒募集

7 月～8 月　オンライン交流（主な事業）

7/3（土）　レクリエーション，
オンライン練習，やっさ踊り練習

7/10(土)　記念品づくり，クリームパン実食，
やっさ踊り練習

7/24(土)　両市町についての学習会，
湯河原町お土産(クッキー)実食，
やっさ踊り練習

8/8（日）　【神奈川県への緊急事態宣言発出により延期】
クイズ大会，プレゼント交換
やっさ踊り披露

※下線は，湯河原町とオンラインで交流する事業

【主な成果】

〇ＧＩＧＡスクールで整備したＩＣＴ端末を活用することで，現地を訪問できなくても，湯河原町児童と交流することができた。

〇わがまち三原をより深く知ることで，参加者の郷土愛を醸成することができた。

湯河原町と友好と親善を深め，歴史的背景の学習や伝統文化に触れることで，子どもたちの郷土愛を育む！

文化財保存活用地域計画

第１回三原市文化財保存活用協議会

○　令和３年８月２３日　オンライン開催
①　文化財保存活用地域計画
②　三原市の文化財
③　意識調査・ワークショップ

【委員からの意見】
◆　若い人の意見を盛り込めるように
◆　埋もれている文化財の掘り起こしを
◆　地域で文化遺産と考えるものを盛込めば観光や文化が芽生えると思う
◆　市域を超えた取組みになれば，より良い

意見集約の３つの手法

種別	対象	効果
○　意識調査	自治組織･町内会の代表者	地域毎の特徴･課題
○　ヒアリング	市内業界団体 （商工会議所，観光協会，仏教会，女性会など）	業界団体の意向確認
○　ワークショップ	35才以下の市民	意識醸成と人材育成

意識調査（案）

○　目　的　①市民意識の把握　②地域のお宝発掘
○　時　期　１０月上旬
○　対象者　自治会・町内会等の代表者（市内全域で 505 人）
○　内　容　①三原市の歴史文化　②地域の取組　③市の取組　　④地域のお宝

ワークショップ（案）

○　目　的　文化財の保存と活用に対する若い世代の意識醸成
○　時　期　１１月の毎週土曜日（全４回）　６日，１３日，２０日，２７日
○　対象者　１５～３９才の市民（公募の１０～２０人程度）
○　内　容

令和３年度文化財保存活用協議会の開催計画等

○　第１回（済）　文化財保存活用地域計画　三原市の文化財　意識調査・ワークショップ
○　第２回　意識調査・ワークショップ報告　文化財保存活用の課題検討
○　第３回　未指定を含む文化財の基礎資料報告　R3 事業報告　R4 計画作成スケジュール案

○かわら版
（地域計画や協議会について，わかりやすく伝える情報誌）を配布予定

文化財保存活用協議会の構成

区分（文化財保護法第 183 条の９第２項）		名前	所属	専門
学識経験者		桂　雄三	元文化庁主任文化財調査官	地質
		秋山　伸隆	県立広島大学名誉教授	歴史
		鈴木　康之	県立広島大学教授	考古学
		向田　裕始	三原市企画展覧会運営委員会委員	民俗
		吉田　倫子	県立広島大学講師	建築・都市
		中田　利枝子	就実大学・徳島文理大学非常勤講師	絵画・工芸
文化財所有者		垣井　龍顕	宗光寺住職	文化財
商　工		石井　覚道	（一社）三原青年会議所	商工
観　光		延里　尚志	三原観光協会	観光
教育委員会が必要と認める者	教　育	宮本　佳宏	三原市小学校長会	教育
	まちづくり	梅本　尚枝	三原ウイメンズネットワーク	まちづくり
		正田　哲夫	西国街道・本町地区まちづくり協議会	まちづくり
		小松　愛香	株式会社 KOTOYA	まちづくり
	市民代表	西村　雅幸	公募委員	
市		由水　有貴	三原市経済部観光課長	市
		木村　敏男	三原市教育委員会教育部教育部長	市

都道府県（オブザーバー）	白井　比佐雄	広島県教育委員会管理部　文化財課	県

スポーツサポートプログラム

● 目 的

（1） **新しいスポーツライフの提案**
「ささえる」スポーツに関わることで，スポーツライフを豊かに。

（2） **スポーツを通じた人と人との交流の場を提供**
スポーツの楽しさや，選手，観客と喜びを分かち合うことができる場所，体験する機会の提供。

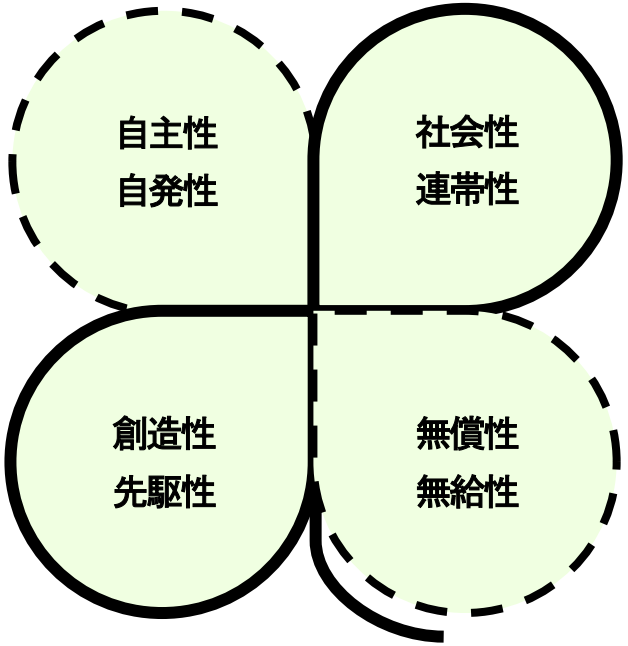
● ボランティア4原則

① **自主性・自発性**　自分の意志で行う活動

② **社会性・連帯性**　互いに助け合い，学びあう活動

③ **無償性・無給性**　金銭的な報酬を期待して行うのではなく，「経験」「出会い」「感動」「喜び」を得るための活動

④ **創造性・先駆性**　何が必要とされているのかを考えながらより よい社会を目指す創る活動



● ファーストステップ

「互いに助け合い　よりよいスポーツライフを創り出す活動」

● プログラム概要

１　キックオフミーティング （　知る　）	○　令和３年８月１日（日）13：30～ ○　スポーツボランティア体験談（講師：広島市スポーツ協会）＋交流
２　サポート見学 （　見る　）	○　令和３年 10 月３日（日）　広島広域公園（エディオンスタジアム） ○　Ｊリーグ公式戦でのスポーツボランティアの活動見学
３　ハーフタイムミーティング （　振り返り　）	○　令和３年 10 月 31 日（日） ○　Ｊ１公式戦前の広島市ボランティアのミーティング動画を視聴 ○　「知る」「見る」を通して，「実践」にむけての振り返り
４　スタッフトレーニング （　実践　）	○　令和３年 11 月 20 日（土）　やまみ三原運動公園　多目的広場 ○　サンフレッチェのコーチによる親子向けサッカー教室でのサポート
５　スタッフトレーニング＋ （　実践　）	（　スポーツ大会でのサポート機会の提供　）
６　レビューミーティング （　振り返り　）	○　令和３年３月 20 日（日） ○　全体の通しての振り返り　⇒　これからも「サポート」の楽しみを